

ムギ類赤かび病情報第2号

令和6年5月13日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

「ゆめあかり」を中心に発生が広がっています。
ほ場の発生状況を確認し、速やかに防除しましょう。

1 ムギ類赤かび病の発生状況

4月25日に注意報を発表したところですが、県内で本病の発生が拡大しており、**発生の多かった令和4年よりも多い状況です。**

5月上旬に県内10地点20ほ場で行った巡回調査において、ムギ類赤かび病の発病穂率は、6.95%（平年0.65%、前年1.85%、令和4年2.07%）で、**過去10年間と比較して最も高い**状況です。

また、同時期に県内20地点100ほ場で行った発病状況調査において、発生ほ場率は98.0%（平年42.1%、前年57.9%、令和4年84.0%）で、**過去10年間と比較して最も高い**発生状況でした。

一部で多発しているほ場もあり、さらに、多くのほ場で1穂に複数小穂の発病が確認されています。特に品種「ゆめあかり」のほ場で発生が多い傾向です。4月半ば以降、降雨日が多く、本病の感染に好適な環境が続いたためと推測されます。

2 防除対策

発生状況にバラツキがあるため、ほ場の状況をしっかりと確認し、感染拡大を防ぐため、速やかに防除しましょう。

なお、収穫前日数や薬剤散布履歴を考慮して薬剤を選定しましょう。

3 かび毒について

本病原菌は、感染したムギの品質低下や減収の原因になるだけでなく、デオキシニバレノール（DON）やニバレノール（NIV）等のかび毒を発生させることがあります。

麦類の生産段階（栽培、乾燥調製、貯蔵）において、赤かび病防除、赤かび病被害粒の選別等により、かび毒汚染の防止、低減を図ることが重要です。このため、**ほ場の発生状況を確認し、注意して収穫してください。**また、刈り遅れがないよう適期に収穫しましょう。

詳しくは、農林水産省が公開している「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針（令和5年3月14日公表）（アドレス：https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisin.html）」を参考としてください。